

総合知による社会的課題の解決に向けた提言策定プロジェクト

九州大学 未来社会デザイン統括本部

九州大学では、社会的課題の解決に必要な総合知を創出し、社会変革に貢献することを目的として「未来社会デザイン統括本部」を設置している。本組織では、社会的課題の抽出を行い、課題解決に資する政策を取りまとめ、第4期中期目標期間中に5項目以上の政策提言を公表することとしている。第1弾として、脱炭素地域づくりの提言を策定・公表した。脱炭素社会の実現に向けて理想とする未来社会をデザインし、建築・都市計画、エネルギー工学、情報科学、環境学、社会福祉・地域政策、デザイン学、農学など多様な専門分野の知見を活かしながら、社会的課題の解決に向けたプロセスデザインを提案し、広く社会に発信・共有を行っている。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

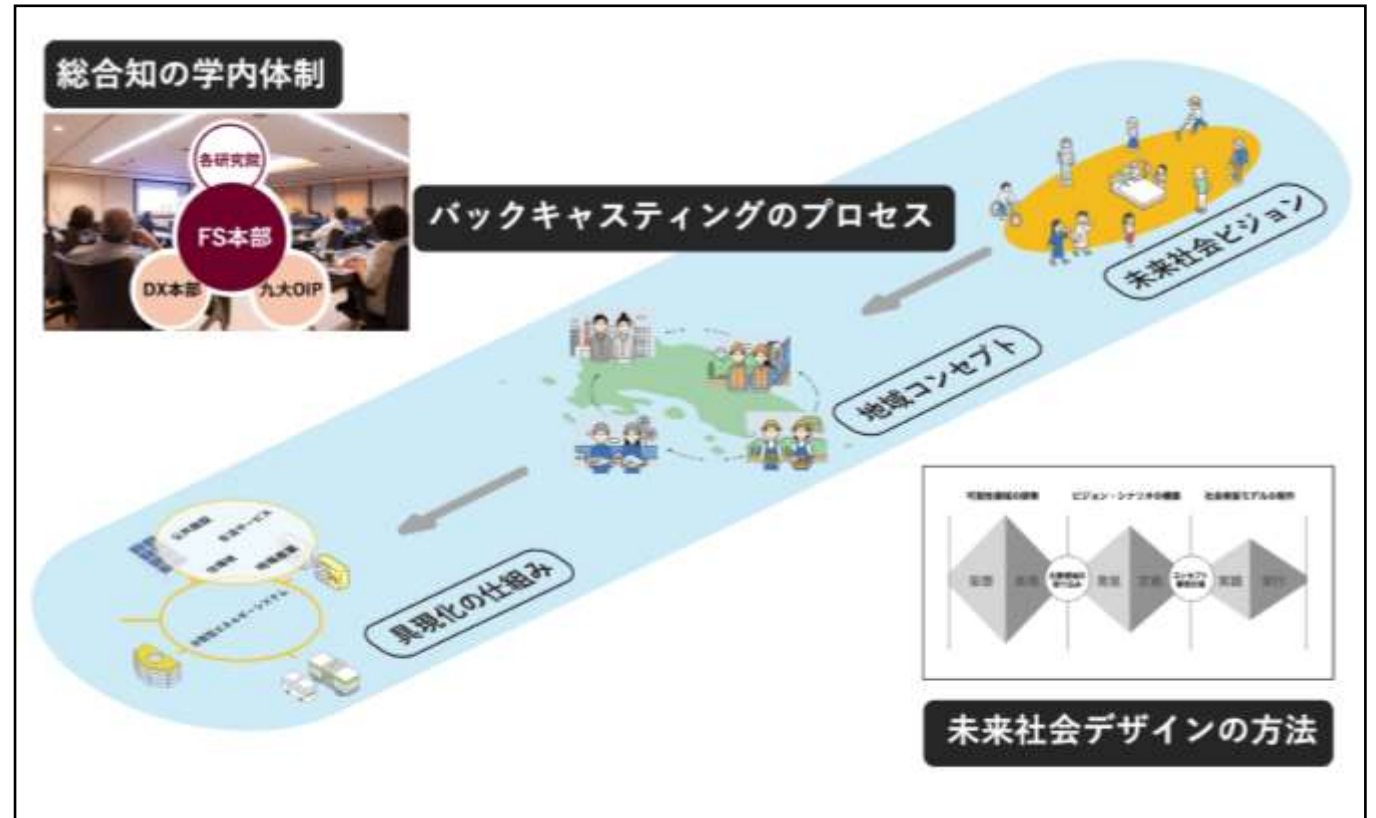
地域の多様性を尊重し、誰もが安心して暮らせる包摂型社会の実現を目指す。地産地消型のエネルギーシステム、自動運転モビリティとコミュニティ・ハブによる歩いて暮らせる街、データ駆動型の生活・産業モデルの構築を通じて、持続可能な社会像を設定している。

ビジョン達成の課題

モデル地域のエネルギー需要・供給構造、人口動態、生活圏の分析を行い、社会的弱者や過疎地域の課題を抽出することが求められる。これらの課題に対して包摂性の観点から、脱炭素と地域活性化を両立するためのシナリオを設計した。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

建築・都市計画、エネルギー工学、情報科学、環境学、社会福祉・地域政策、デザイン学、農学など多様な専門分野の研究者による連携体制を構築し、産学官連携機関や研究者会合を通じて行政・企業・市民と協働することで、政策提言と社会実装をつなぐ新たな価値が生まれている。





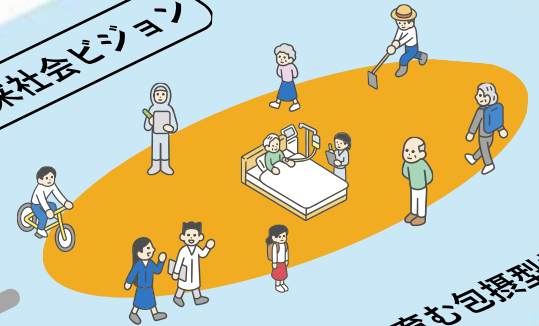
総合知による未来社会ビジョンの創出と、バックキャストによる具現化

総合知の学内体制



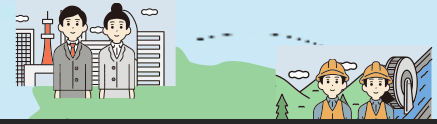
FS本部では「バックキャストによる課題解決」を目指している。エネルギー系、医療・健康系、環境・食料系、デザイン系などの多様な研究者の議論を基に未来社会ビジョンを描いた上で、DX本部やOIPとも連携してその具現化のプロセスをデザインし、行政や企業、市民と協働して社会実装を進めている。

未来社会ビジョン



多様性を育む包摂型社会

地域コンセプト

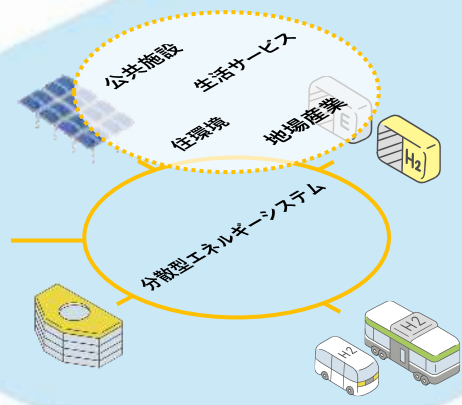


バックキャストのプロセス



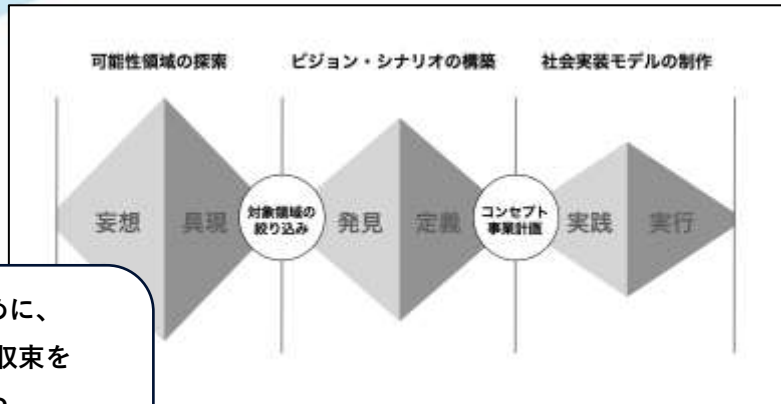
コーポラティブ・リージョン

具現化の仕組み



スケルトン・インフィル型地域づくり

総合知を活用して未来社会をデザインするために、FS本部では多様な研究者による議論の拡散と収束をマネジメントして社会課題の再定義を行いつつ、未来社会像のプロトタイピングを繰り返してビジョンからコンセプト、具現化の仕組みを導いている。



未来社会デザインの方法



総合知の活用による地域の統合的デザインと実装の推進

